

【質問】あまりにさまざまな年金の管理を続けていた社会保険庁や厚生労働省に怒りを覚えます。厚生労働省の在り方に関する検討会が発足したとのことですが、改革は可能なのでしょうか。(60歳・会社員男性)

厚労省改革

【回答】今、医療や福祉、年金といった社会保障に対する国民の信頼が揺らいでいます。信頼の早期回復は政府の最大の課題です。

政府の有識者会議「厚生労働行政の在り方に関する懇談会」が八月に発足しました。「国民の目線に立った厚生労働行政を推進するため、行政全般を総点検する」とのこと。根本的な組織改革の端緒となること

医療制度



に変わる医療行政が問題です。高齢者が長期入院できる「療養病床」は高齢者医療

として多くの介護難民が生まれると危惧(きぐ)されています。猫の目行政はまるで、もぐらたたきのようです。次々と起こる問題点をたたくだけで、根本的な解決にはならないばかりか、事態はますます悪化しています。

長期的視野の政策必要

期待されます。

社会保険庁によるさまざまな年金記録問題、エイズや肝炎などの薬害問題隠し、医師不足や地域医療崩壊への現状認識の甘さと対応の遅れなど、厚生労働行政の不始末を挙げればきりがありません。医療では、猫の目のよう

の切り札として奨励されたにもかかわらず、わずか十年で大幅に削減される計画です。多額の投資をして療養病床を整備した医療機関にとってははしごを外された

猫の目行政をなくすには、より長期的な視野に立ち、かつエビデンス(事実)に基づいた政策が必要で、厚生労働省はデータを分析して的確に現状を把握し、将来予測を立てる能力が劣っているように思えます。データ分析で得られた結論がし

現場感覚の欠如も問題

ばしば厚生労働省に都合の良いものとなっているからです。国内の医療データを公開し、公平、的確なデータ分析が必要です。

ほかにも多くの改善点があります。一番問題なのは官僚の現場感覚の欠如です。机上の空論では制度は機能しませんし、定着もしません。担当部署が細分化されすぎて典型的な縦割り行政となった組織の見直しや、国民に対する説明力、発信力の強化も必要です。国民が安心して暮らすにはセーフティネットである社会保障の充実が不可欠です。他省庁の改革のお手本となるような厚生労働省改革であってほしいと思います。(県医師会)